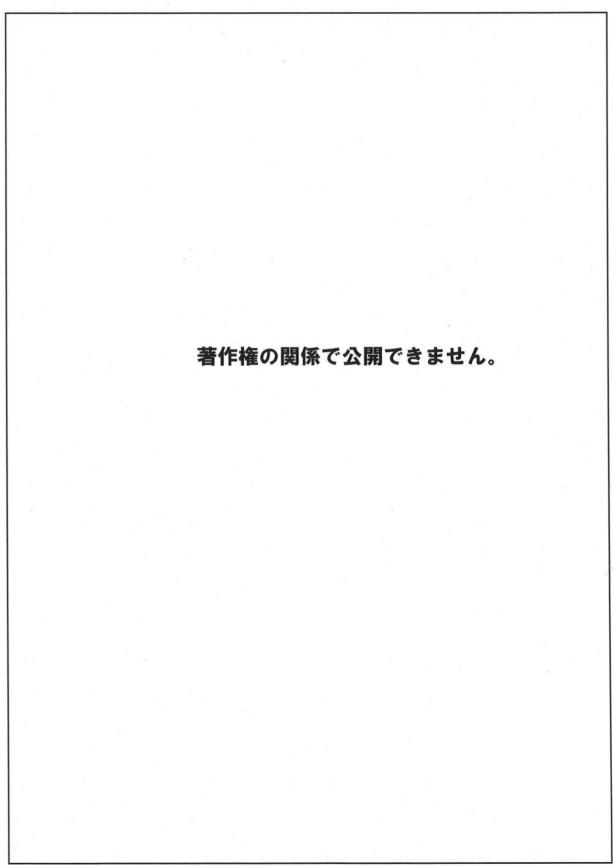
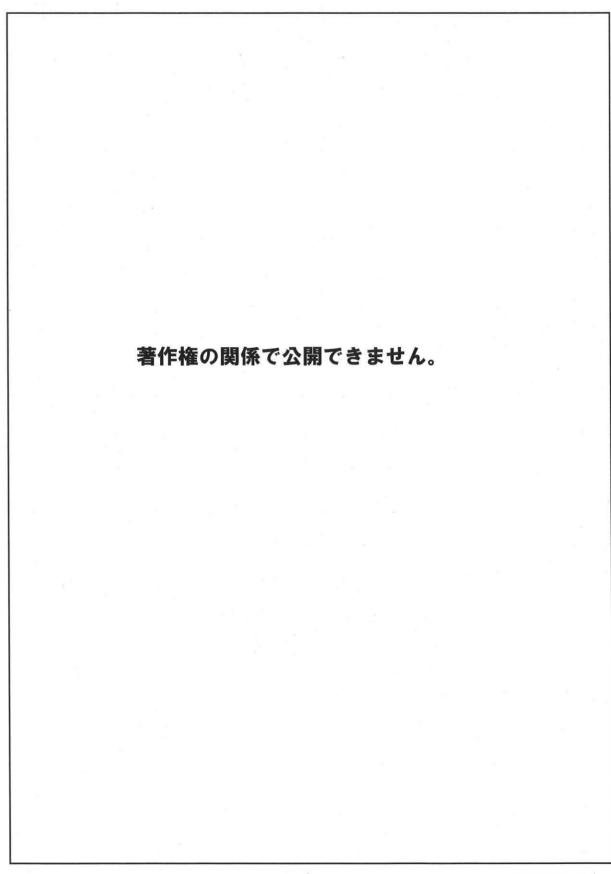
小 論 文 (後期)

〔注 意〕

- 1. 監督者の指示があるまで、この冊子を開かないこと。
- 2. この冊子の問題は9ページからなる。落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所などがあれば監督者に申し出て、問題冊子の交換を受けること。
- 3. 監督者の指示に従って、解答用紙4枚に受験番号および氏名をそれぞれ必ず記入すること。
- 4. 解答は、必ず解答用紙の指定された場所に、縦書きで記入すること。
- 5. 解答に字数制限のある場合は、句読点と括弧を字数に数えること。
- 6. 解答は、内容とともに、語彙、漢字、構文、句読点の付け方、表現の正確 さにも注意して書くこと。
- 7. この冊子は、持ち帰ること。

著作権の関係で公開できません。 1~4頁





問二 見をふまえ、あなたの意見を五〇〇字以内で述べなさい。 人間も群れを作って生活する生物である。 人間の群れはどのような機能を持つチームであると考えられるか。著者の意

問一

著者は生物が群れる理由をどのように考えているか。一五〇字以内で説明しなさい。

著作権の関係で公開できません。

頭のカバが草を食べていた。大きなからだ。大きな口。ゆうゆうたる態度で草を食べつづけていたが、やがてそれにもあ

きたのか、道のほうへと歩いてきた。

「わあ、おカバさまだ」

自動車を運転していた者は、それを見てあわてて叫び、かん高い音を響かせてブレーキをかけた。急いで車から出て、道ば

たにすわる。道路上の、あとにつづいていた自動車は、みなそのようにした。

歩いていたカバが車にぶつかり、けがをした場合、たとえ停車中だったとしても、運転席に人がいたら、非は人間のほうに

あるとされてしまうのだ。

れていた。しかし、その他の食料は、くだものでもお菓子でも、また酒でも、カバにさし出さなければならない。カバが食べ もし車に食料をつんでいたら、それをカバの前にさし出さなければならない。カバは草食の動物であるので、 肉類は除外さ

たそうな顔をしていようがいまいが。

それをやらずに発覚したら、大変な刑に処せられる。カバが自分の前を通りすぎる時には、頭を下げ「おカバさま、どうぞ

お元気で」とていねいにあいさつをしなければならない。

の住宅にも、カバは勝手にやってくる。のそのそ庭に入ってきて、草花を食べつくすこともある。腹のはったカバは、プール この一頭のカバに限らず、すべてのカバを尊敬しなければならなかった。カバはいたるところに、うじゃうじゃいる。郊外

「あ、おカバさまが、プールにおはいりになられた。水の温度をみろ……」

に入ることもある

そして、水がつめたすぎると、急いでお湯を加え、適当な温度にしたりするのだ。

カバは街なかをも歩きまわっている。スーパー・マーケットにもやってくる。そこにある新鮮な野菜を食べたりもする。

の者はお客の人たちを整理し、おカバさまのじゃまにならないように努める。店の損害にはならないのだ。カバの食べたぶん

を書類にして役所に提出すれば、その料金がもらえるからだ。

めるホルモン剤を製造する国営工場がある。いうまでもないことだが、カバに危害を加えようとする者を取り締る、特別の警 政府には〈おカバさま省〉という官庁があり、それらの一連の仕事をやっている。カバ専門の医者がおり、カバの繁殖を高

察機構もあるのだ。

このような世になってから、すでに何年かがたつ。ことのおこりはこうだった。

社会の運営を大きく精巧なコンピューターにまかせる時代となり、それによって、さまざまな問題と混乱がおさまった。す

べてが平穏で順調な世の中となったある日、コンピューターがこのような指示を出したのだ。

〈これからは、カバを大切にせよ。大きな動物の、あのカバのことだ。いや、カバと呼び捨てにしてはいかん。おカバさまと

呼ぶのだ。この指示にさからう者があれば、厳罰にせよ……>

た。これに反してはいけないのだ。この指示こそ絶対なのだ。理由はわからないが、コンピューターがまちがったことをする ただちに立法の手続きがとられ、官庁が新設されたというわけ。コンピューターはこれまで、すべて正しい指示をしてくれ

わけがない。

人間のなかには、あまのじゃくな性質の主もいる。こんな意見を口にする者もあった。

「くだらん。そこまでカバを大切にすることなんかない。これじゃあ、徳川時代に犬をむやみと大事にした、頭のおかしな将

軍とおんなじじゃないか」

「いや、そんなことはない。第一、いまは徳川時代とちがい、文明の世だ。また、頭のおかしな将軍と、科学の成果である正

確そのもののコンピューターとをいっしょにするやつがあるか

「おんなじことだ」

「ちがうぞ。徳川時代の対象は犬だったが、こんどはカバだ。犬とカバでは、大きさからしてちがう」

— 6 **—**

♦M10 (212—88)

論争をしていた二人は、二人とも警察に逮捕された。ひとりは政策に反対したというので重罪になり、ひとりはカバと呼び

捨てにしただけなので、軽犯罪ですんだ。

こでも食にありつけ、定期的に与えられるホルモン剤の効果もあり、どんどん繁殖した。 かくして、おカバさまは、どんなところをも、わがもの顔でのし歩くこととなった。本来の臆病な性質もなくなった。ど

自動車は乗り物としての用をなさなくなった。おカバさまを傷つけたりしたら、重罪のうえに全財産を没収されるからだ。

排気ガスがへり、それがおカバさまの健康にいいのか、ますますふえる一方だった。

各所におカバさま用のプールが作られ、適温の水がたたえられている。おカバさまがおいでにならない時、子供たちがそこ

で遊ぶのは許され、悪くないことでもあった。

し、あたためてあげなければいけないのだ。そのため、人はオーバーにくるまって、戸外で夜をすごさなければならない場合 夏はまだしも、冬になると、人びとの苦労はちょっと大変だった。寒がっているおカバさまを見たら、家のなかにお連れ

違反者はぞくぞくと逮捕され、囚人部隊に編入され、おカバさまの排泄物の清掃のため、道路を歩きまわるということにな

る。だれもがびくびくして毎日を生活した。

もある

かくして何年かがたち、おカバさまはさらにふえ、人びとが内心、これは少しおかしいんじゃないか、コンピューターが

狂ってるんじゃないかとの疑惑を持ちかけた時だ。

世界に異変が起った。家畜の伝染病が大流行したのだ。その伝染力はものすごく、牛やブタはつぎつぎに倒れていった。

コンピューターはそれについて発表する。

〈家畜はほとんど全滅した。わずかに生き残った免疫体質のが、もとのようにふえるまでには、かなりの年月を必要とす

る……〉

「どうしたらいいのでしょう」

人びとの質問へのコンピューターの指示。

物蛋白の栄養は、 心配はいらない。 それによって、一般の家畜がふえるまでのあいだ、なんとかなる。カバをおいしく食べる料理法の指示をす カバを食えばいいのだ。カバについての保護条令をただちに廃止し、食料にふりむけよ。人間に必要な動

る……〉

その料理法でカバを食べると、とてもおいしかった。コンピューターの指示がおいしいというのだから、まずいわけがない

という気のせいの作用もあったかもしれない。

かげで、いまこのように助かった。動物のうちカバだけは伝染病にやられなかった。指示をばかにしてカバをふやさないでい なにしろ、コンピューターの指示は正しいのだ。みごとに立証されたではないか。その指示どおりカバを大切にしていたお

たら、栄養失調で大量の死者が出て、悲惨なことになったろう。

コンピューターはあらゆる情報をもとに、この事態の予測を立てたのだろう。それによって、人類の危機は未然に防げたの

だ。

コンピューターへの人びとの信頼は、さらに高まった。 おカバさま事件の時にあざ笑ったりした連中も、 内心で深く反省し

た。

いが生じた。その結果として、こんな指示が出ることとなった。 たしかにコンピューターは、 この危機の防止のために、大活躍をしてくれた。その大活躍のためか、 配線回路にかすかな狂

〈人間はこれから、立って歩いてはいかん。よつんばいで歩くべきである……〉

故障によるむちゃくちゃな指示なのだが、 だれひとりそう思う人はいなかった。 いるわけがない。

_ 8 _

♦M10 (212—90)

即して二五〇字以内で述べなさい。

問二 この文章は、現代の様々な課題を議論するためのきっかけにできる題材であると考えられる。あなたが中学校や高校の 授業で用いるとしたら、どのような課題を議論するのに活用したいと考えるか。その理由を含めて、課題となる例を二

つ、それぞれ二五〇字以内で述べなさい。

— 9 **—**

令和4年度入学者選抜学力試験問題 小論文(後期)

第2問 出典

星新一著「おカバさま」(新潮文庫刊『未来いそっぷ』所収)による。 (一部改変しています)